

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	保育内容指導法（音楽表現）						授業形態	講義			
科目コード	750071	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		アクティブラーニング	○		
担当教員名	早川 純子								ICT活用		
授業概要	<p>この授業では、乳幼児の発達段階に合わせた音楽表現を学び、基礎的なコード進行を学んで簡単な伴奏技術を習得することを目指す。幼児の発達に応じた理解と、音楽を通じた表現活動を経験することで、実践力を身につける。また、「聴く」「歌う」「動く」「奏でる」「つくる」という音楽表現の観点から、音楽活動の意義と目的を考慮し、保育技術を実践するための習得を目指します。簡易伴奏法を学ぶことで、簡単なコード進行を演奏する技術を身につけ、コードを付けて様々な楽曲を演奏することや、声域に合わせてキーを変更することができるようになることを目指す。</p>										
関連する科目	<p>事前に「ピアノ実技I（基礎）」および「ピアノ実技II（応用）」を履修し、ピアノ実技の基礎力を身につけ、鍵盤奏に習熟していることが望ましい。本授業と並行して、または履修後に「ピアノ実技III（実践）」および「器楽合奏・音楽療法演習」を履修し、応用力を高め実践的力を身につけることが望ましい。</p>										
授業の方法と進め方	<p>毎回の授業において、理論と実技を行う。1回の授業の構成は下記の通り。 授業の前半で、発達段階や保育技術の理論を学び、後半では季節の歌・手あそび・簡易伴奏法をワークショップ形式で実践的に学習する。</p>										
授業計画【第1回】	<p>第1回：導入（オリエンテーション） 豊かな音楽的表現力や人間性を養うために必要な資質・能力について学ぶ。</p>										
授業計画【第2回】	<p>第2回：幼児の発達と表現（概論） 保育内容 領域「表現」の捉え方、音楽表現活動の意義、4月の歌、ハ長調の主要三和音を学ぶ。</p>										
授業計画【第3回】	<p>第3回：音楽の基礎的な要素と音楽表現 呼吸と拍、テンポと強弱、拍子とリズム、形式とニュアンス、5月の歌、属七の和音を学ぶ。</p>										
授業計画【第4回】	<p>第4回：幼児の発達と音楽表現（発達段階別） 発達段階に応じた手あそび、6月の歌、ハ長調のコードネームを学ぶ。</p>										
授業計画【第5回】	<p>第5回：聴く活動 聴く活動の意義とねらい、子どもの発達に合った活動の援助、7月の歌、二長調の主要三和音を学ぶ。</p>										
授業計画【第6回】	<p>第6回：歌う活動 歌う活動の意義とねらい、楽器の奏法、8月の歌、二長調のコードネームとハ長調への移調を学ぶ。</p>										
授業計画【第7回】	<p>第7回：歌う活動の援助 歌う活動と保育者のかかわり、9月の歌、ハ長調の主要三和音を学ぶ。</p>										
授業計画【第8回】	<p>第8回：奏でる活動 奏でる活動の意義とねらい、楽器の奏法、10月の歌、ハ長調のコードネームと移調を学ぶ。</p>										
授業計画【第9回】	<p>第9回：奏でる活動の援助 楽器の選び方、リズム譜の基本、11月の歌、ト長調の主要三和音を学ぶ。</p>										
授業計画【第10回】	<p>第10回：動く活動 動く活動の意義とねらい、基礎的な身体表現、12月の歌、ト長調のコードネームと移調を学ぶ。</p>										
授業計画【第11回】	<p>第11回：動く活動にあった援助 効果音、ボディパーカッション、1月の歌、ハ長調・二長調・ハ長調・ト長調の復習を行う。</p>										

授業計画 【第12回】	第12回：つくる活動 つくる活動の意義とねらい、2月の歌、調号が2つの調性について学ぶ。
授業計画 【第13回】	第13回：幼児の活動にあった援助(つくる活動) 効果音を使った音楽劇、即興表現あそび、手作り楽器、調号が3つの調性について学ぶ。
授業計画 【第14回】	第14回：いろいろな音楽教育法 ダルクローズ、オルフ、コダーイ、シュタイナー、モンテッソーリ、3月の歌について学ぶ。
授業計画 【第15回】	第15回：まとめ 遊び歌、手遊び、和声の総復習を行う。
授業の到達目標	1. 幼児の発達段階や季節や機会に応じた歌唱、あそび歌、手あそびを数多く身につけること。 2. 「歌う」「聴く」「奏でる」「つくる」「動く」活動の技術を身につけること。 3. 主要三和音のコードフォームを身につけ、簡易伴奏ができるようになること。 4. 人前で歌ったり身体表現をすることに習熟すること。 * 授業での実践と自主練習を通し、着実かつ確実に習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学習 【予習】	発達段階については、他科目で学んだことも含め理解しておくこと。(30分程度)
授業時間外の学習 【復習】	手あそびやコードフォームの復習は必ず行い確実に身につけること。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	テストや課題は、評価後に返却および解説をします。
評価方法・基準	受講態度：60%、オリジナル手あそび作成課題：20%、筆記試験：20%
テキスト	櫻井琴音・上谷裕子 編著『第2版 アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現』(学文社) 大石みつ・下村幸・鳥居美智子 共編『楽しい歌とあそび』(音楽之友社)(※2年「ピアノ実技I(応用)」でも使用) 全国大学音楽教育学会 九州地区学会 編『ピアノテキスト』(カワイ出版)(※1年「音楽」および「ピアノ実技I(基礎)」でも使用)
参考書	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)
備考	